

2022年7月15日

学校関係者評価委員会 報告書

学校法人コア学園
秋田コア ビジネスカレッジ
学校関係者評価委員会

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者評価委員会において「2021年度自己評価報告書」に対し、評価を行った。学校側からの説明および各委員からの意見を以下の報告書として取りまとめた。

学校関係者評価委員

<委員長>

- ・浅野 雅彦 (秋田商工会議所 事務局長)

<外部委員>

- ・松井 剛 (一般社団法人 秋田県情報産業協会 理事代理、株式会社シグマソリューションズ 社長付 事業改革室 室長(兼) 管理統括部)
- ・吉川 裕太 (吉川税理士事務所 所長)
- ・石田 雄哉 (秋田市立秋田商業高等学校 教諭)
- ・畠山 昭広 (秋田県医師会 事務局長)
- ・橋本 浩 (ホテルメトロポリタン秋田 総支配人)

<学校側>

- ・小林 聖敬 (副理事長)
- ・小野 巧 (校長)
- ・小玉 拓子 (事務長)
- ・小杉 咲子 (学生部 部長)
- ・米谷 久志 (教務部 部長、高度職業実践科 主任)
- ・藤井 孝太郎 (教務部 副部長、情報システム科 主任)
- ・大石 卓司 (ビジネスマネジメント科 主任)
- ・舘岡 美紀 (医療事務科 主任)

学校関係者評価委員会

日時：2022年6月16日（木） 17:15～17:55

場所：学校法人コア学園 秋田コア ビジネスカレッジ 103・104教室

1. 学校からの配布資料

- (1) 職業実践専門課程 リーフレット（文部科学省）
- (2) 学校評価委員会実施規程
- (3) 2021年度自己評価報告書
- (4) 学生便覧
- (5) 学校案内

2. 学校からの主な説明

(1) 学校評価について

① 学校評価の目的

学校評価を通じた組織的・継続的な教育活動等の改善、および、学生・卒業生、関係業界等の地域のステークホルダーとの連携協力による特色ある専修学校づくりの推進のため。

② 学校評価の定義

- ・自己評価：各学校の教職員が、当該学校の理念・目標に照らして自らの教育活動について行う評価
- ・学校関係者評価：学生・卒業生、関係業界、専修学校団体・関係団体、中学校・高等学校、保護者・地域住民、所轄庁等の学校関係者により構成された評価委員会等が自己評価の結果を基本として行う評価
- ・第三者評価：学校から独立した第三者による評価基準等に基づき、専門的・客観的立場から行う評価

(2) 外部アンケートの実施について

学生を対象に、2020年度の授業評価アンケートを実施し、自己評価の資料として活用した。

(3) 自己評価について

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、「教育理念・目的・育成人材像」「教育活動」「学生支援」の3つの視点に沿って評価項目を設定し、自己評価を行った。

3. 委員からの主なコメント、質問及び回答

- (1) 評価項目「(4)-11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか」

質問：具体的にどのような人材を確保したいのか相談いただければ、我々の方で力になれることやアドバイスできることがあるのではと考えている。ぜひそうした工夫ができればと思う。

回答：学科ごとにどのような得意分野を持った方が必要か、ぜひ機会を設けて相談させていただきたい。

- (2) 評価項目「(5)-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」

質問：把握するためどのような取り組みをしているのかを教えてください。また、共賛会も活用してほしい。

回答：現在はSNSで繋がっているケースが多いが、個人の性格等によって追い切れていない部分もある。共賛会とも連携を深め、把握していく必要がある。

- (3) 評価項目「(6)-2 学生相談に関する体制は整備されているか」

質問：定期的なスクールカウンセリングの実施体制が整備されているが、昨年度は実際何件の相談があったか。また企業側としても学生に対して気をつけなければいけない面あれば教えてください。

回答：相談件数については、個人情報の問題もありカウンセラーの先生から具体的な数字はいただけていないが、来室する学生の傾向等は指摘をいただいている。今後は差し支えのない範囲で企業側とも情報共有できればと考えている。

- (4) 評価項目「(3)-2 業界や地域社会と連携を図りながら、県内就職を推進する」

質問：業界によってはコロナの影響に苦しんでいる。インターシップが就職活動にうまくつながっているという話もあった。ぜひそういった機会をさらに増やしていただきたい。業界としても一緒に活動できることがあればしたい。

回答：コロナの影響が大きく、インターンシップや実習の実施が難しかった時期もあった。地元で働きたい、東京で働きたいなど学生の要望は多様であるが、実践力をつけるために様々な企画をしている。今後も引き続き協力をお願いしたい。

以上